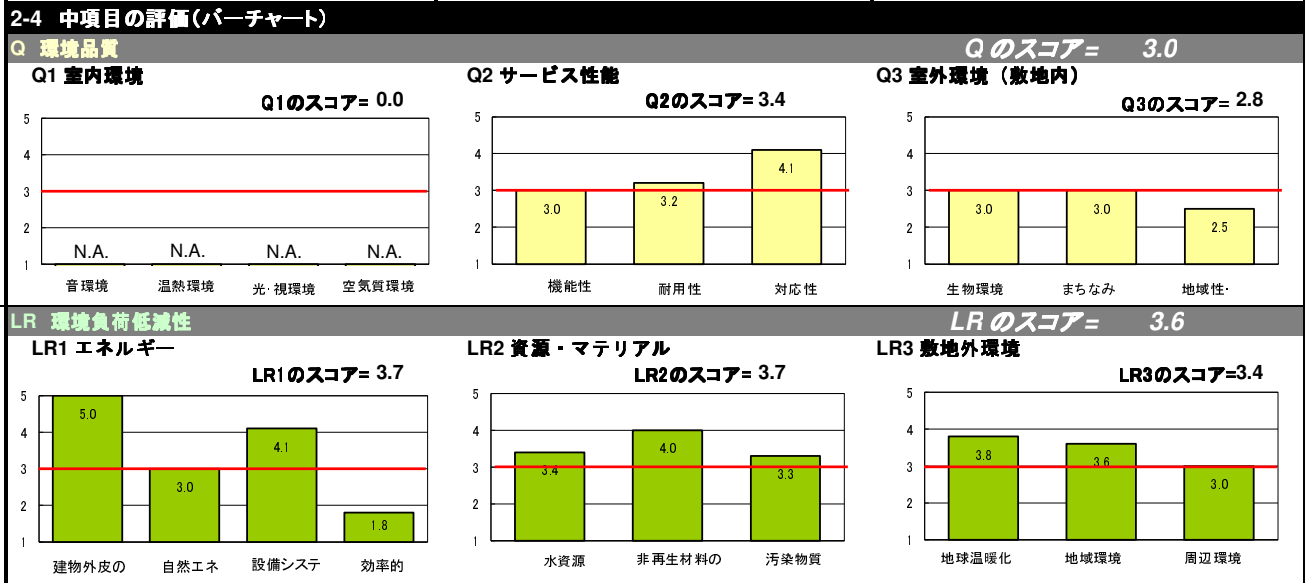
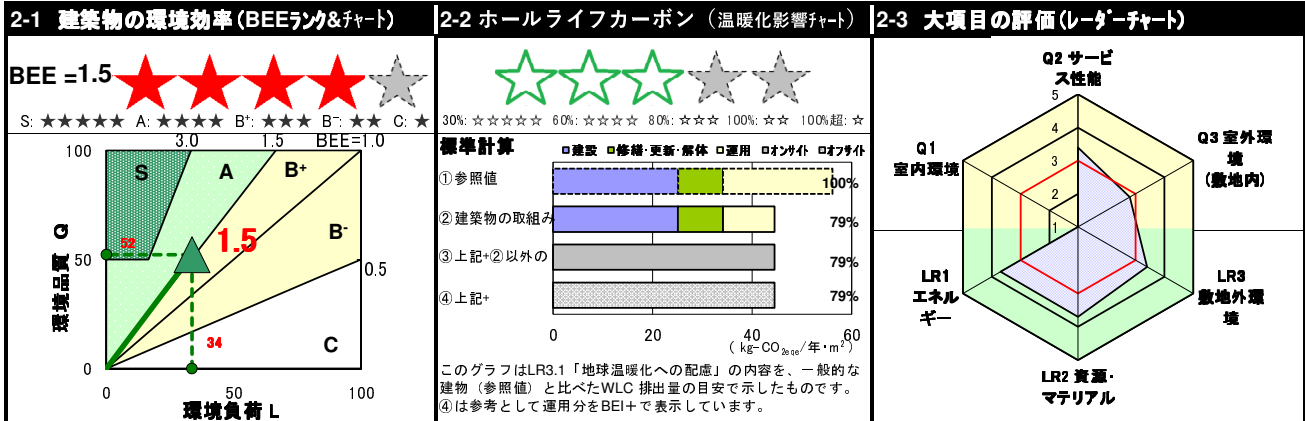


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	AS-LOGI鈴鹿	階数	地上2F
建設地	三重県鈴鹿市	構造	S造
用途地域	指定無し(市街化調整区域)、法22条	平均居住人員	83 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026/3/31 予定	評価の実施日	2025/4/4
敷地面積	12,078 m ²	作成者	
建築面積	5,498 m ²	確認日	2025/6/6
延床面積	10,947 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	・省エネルギー、環境負荷の削減などを取り入れ、鈴鹿の地にふさわしい施設づくりに取り組んでいる。	その他 0
Q1 室内環境	工場用途のため評価対象外	Q2 サービス性能 ・階高に余裕をもたせることで開放的な空間としている。 ・設備機器については倉庫内の天井下を通すことで容易に更新・修繕を行うことのできる計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	・鈴鹿市景観計画に準拠。 ・利用者が季節感を感じられるような樹種を選定し、景観や周辺環境に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・空調や給湯器の熱源に燃焼機器を使用せず、大気汚染の防止を図る。 ・騒音、悪臭、光害が発生しないよう周辺環境への配慮を行っている。
LR1 エネルギー	・環境に配慮し、外皮性能の高い外装材の採用や設備機器の効率的な配置を検討した。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具を用いることで水資源の保護に配慮。 ・躯体材料、躯体材料以外のどちらにもリサイクル材を使用することで非再生性資源の使用量削減に取り組んでいる。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■ 評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版
AS-LOGI館

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-		-	-	-	-	
1.2 遮音		-		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-	
1.3 吸音		-		-	-	-	-	
2 温熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-	-	
1 室温		-		-	-	-	-	
2 外皮性能		-		-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		-		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-		-	-	-	-	
2.3 空調方式		-		-	-	-	-	
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	
1 昼光率		-		-	-	-	-	
2 方位別開口		-		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-		-	-	-	-	
3.2 グレア対策				-	-	-	-	
1 昼光制御		-		-	-	-	-	
3.3 照度		-		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-		-	-	-	-	
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-		-	-	-	-	
4.2 換気				-	-	-	-	
1 換気量		-		-	-	-	-	
2 自然換気性能		-		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		-	-	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.4
1 機能性				3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	1.00	-	-	
1 広さ感・景観		-		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-		3.0	1.00	-	-	
3 内装計画		-		-	-	-	-	
1.3 維持管理				-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.7	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		アルミ製サッシ、アルミ製自動ドア、鋼製ドア		5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		浸透性表面強化剤、ビニル床シート		4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.1	0.30	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		—	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		—	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		—	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		—	3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		EPS,点検口等を採用	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		EPS,点検口等を採用	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		—	3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		敷地内にバックアップスペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		立地環境方針 生物資源の保存と復元 緑の質の確保等	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		—	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		—	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用(直接利用)		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		—	4.1	0.50	-	-	4.1
集合住宅以外の評価			4.1	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用に向けた取組み			1.8	0.20	-	-	1.8
集合住宅以外の評価			1.8	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		—	2.0	0.40	-	-	
4.2 運用管理体制		—	1.0	0.40	-	-	
4.3 非化石エネルギーの導入の拡大		—	3.0	0.10	-	-	
4.4 コミッショニングの推進		—	3.0	0.10	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング		—	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		—	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減		—	4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		—	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		—	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		建物全体でLGS等を採用により容易に分別可能	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		—	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		—	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		—	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		—	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		—	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		—	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		—	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		—	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		出入口の幅を12m確保、交差点から離れた位置に計画他	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		—	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音		—	3.0	1.00	-	-	
2 振動		—	-	-	-	-	
3 悪臭		—	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		—	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		対象外	1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		—	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		—	3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2024年版

AS-LOG(鈴鹿)

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	2.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	1.0	3.0	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -															
昼光率 0.0%															
自然換気有効開口面積率 0.0%															
3.1.1 昼光率															
4.2.2 自然換気性能															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
1.2.1 広さ感・景観															
1.2.2 リフレッシュスペース															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
3.1.1 階高のゆとり															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
3.2 荷重のゆとり															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
2 自然エネルギー利用(直接利用)															
3 設備システムの高効率化															
非住宅部分															
集合住宅															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
3.2.1 消火剤															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
3.2.3 冷媒															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															
見付面積比 15% 隣棟間隔指標Rw 0.47															
地表面対策面積率 7.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!															
見付面積Sb 806㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 108 m 基準高さHb 49.5 m															
緑地 880㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡															